

IX 学びのコミュニティ研究会

平成26年8月16日 14:00～
愛媛県上浮穴郡久万高原町 古岩屋山荘



リーダーの育つコミュニティ

讃岐 幸治

どうしてリーダーが必要か

かつてはものがなく不満、不平を言っていたが、今は何が起こるかわからない不安な時代といえる。海図なき航路の時代、「不確実性の時代」(ガルブレイス)ともいわれるように、どういう方向に進んで行ったらいいかわからない。それだけに、どうすすむべきかその方向を示してほしい。引っ張って行ってほしい。

かつては社会や組織に縛られ窮屈な思いをしていた。個性がつぶされた。自由になりたい、そんな思いから集団や組織からの解放をもとめ、やっと自由になった。自分の意思で自由にやれるようになったが、なんでも一人でやらなければならない。仲間もなくみんなばらばらだ。孤独なる群衆(リースマン)である。孤独にいたたまれずみんなといっしょに行動したい、「自由からの逃走」(フロム)がはじまった。

すすむべき方向を示し、その目標のためにみんなをまとめ、それぞれの持ち味を引き出してくれるリーダーを求め始めている。

それは、信長のような超自然的に力を持つカリスマでなく、また、軍隊のコマンダー(司令官)のようなものではない。目標達成のために、メンバーに連帯感をもたせながら、各人の能力を発揮させることのできる、そんな力を持った人を求めている。

リーダーに求められているパワー

リーダーといっても特別な人になるものではなく、学校では校長やPTA会長、学級委員家庭では父親があるいは状況に応じて母親になっている。だれでもリーダーになれるしなる必要がある。

リーダーとして活動していくための必要な力として、先見性、目標設定力、動員力、コミュニケーション力、マネジメント力、判断力、決断力などをあげることができる。もっと簡単に言えば、目標達成に向かって突き進んでいく challenge(挑戦力) 目標達成のために知恵を出しメンバーの能力を引き出していく creativity(創造力) メンバー

をまとめ協働して取り組んでいくように仕向ける cooperation(共同力)これら3C をあげることができよう。

ところで、リーダーとフォロワーは裏腹の関係にある。経済産業省(2005)が社会人基礎力としてあげた、

1 物事にすすんで取り組む力、他者に働きかけ巻き込む力などの「前に踏み出す力」
2 現状を分析し目的や課題を明らかにする力、新しい価値を生み出す力などの「考え抜く力」

3 意見の違いや立場を理解する力、社会のルールや人の約束を守る力などの「チームで働く力」はリーダーとしても身に付けてほしい力だともいえる。

リーダーになりたがらないのか。

リーダーが求められているのに誰もリーダーになりたがらない。変な時代だ。かつては楽しむためにはみんなで山小屋をつくり、そこを拠点に遊びまわることが必要だった。そこでガキ大将が生まれた。いまは、テレビ・ゲームなどがあり、楽しむ手段に事欠かずグループを作る必要もない。ガキ大将文化の衰退である。

第一、集団に所属することをきらう、私生活主義である。自分の気持ちや意見に合わないと思えば、頭にくる、むかつく、きれる。他者とかかわりそれに気を遣ったりすることを極力嫌がる。他者と一緒に活動するとか、他者の世話をすることなど真っ平ご免という。

グループに問題が起ると、リーダーはその責任をとられる。リーダーになるところかひとりで好き勝手に過ごしたいと思っている。リーダーを求め、なんとかしてほしいと期待するが難しい。

リーダーが育つためには。

異年齢集団での活動のすすめ。年上の子と年下の子と一緒に活動することによって、どういうことが起こるか。年上の子は年下の子と過ごすことを通して、思いやりや成長の確認をしていく。年下の子にとって年上の子は「手の届きうる野望を提供する」ことになる。「人間はタフでないと生きられない、しかし、優しさがないと生きていく資格がない」(チャンドラー)というが、リーダーとしての資質を身に付けるためには異年齢集団での体験活動が必要だ。

地域の大人が子どものモデルになることだ。子どもがリーダーとしての力を身に付けていくためには、「欲望を欲望する」とか、「憧れに憧れる」というような目標を設定し、他者とスクラムを組み、いきいきとコミュニケーションを楽しんでいる大人たちの姿こそ必要だ。ボランティア活動でもいい、まちづくり活動でもいい。大人たちがリーダーシップを発揮して取り組んでいる、そういう大人の姿こそ子どもを育てる。そういう大人の活動に子どもを巻き込んでいくことだ。

いつまでも子どもとして扱うのではなく、やや高め目標を設定し、それに責任をもって取り組むように仕向ける。期待が人を育てる。子どもは必要とされて大人になる。刺激的な環境の中に追い込むことも大切だ。過保護の中からはリーダーは育たない。

放課後児童健全育成事業



NIKO NIKO クラブ
館長 白川 真理

地域社会の中で子どもたちが安心安全に過ごせる居場所づくりを目指している。母体は久万保育園。放課後の子どもを支える環境づくりをどのように展開しているか紹介する。

久万高原町は、ある新聞に数十年後には消滅するかもしれないと書いてあった。人口の推移についても、人口減と高齢化が進んでいる。

また、子育て世代の就労率が高いことや、人間関係を持ちづらい、他者の評価が気になるという精神的にも負担のかかる保護者が多い。

当施設は、社会福祉法人育和会という町内ただ一つの複合施設である。生後53日目の赤ちゃんから扱う。保護者の声を拾い上げて、児童館の中に放課後子ども教室を作った。「やさしくね、やさしいことはつよいこと」が育和会の理念、方針。ぶれないような努力をしている。そのためには、職員の意識統一をするのが重要。

職員は、久万保育園で雇用。児童館、放課後子ども教室、児童クラブが連携して同じ場所で活動している。

理念について

こどもの最善の利益と福祉の増進を目指すことを保育理念として、職員全体で取り組んでいる。地域には、育和会だより、ホームページ、保育園の年間行事等で伝えている。育和会だよりは、対象の0歳～18歳までの子どもを持つ家庭に配布している。

常に、職員のミーティング等で共通認識を図っている。放課後子どもプランについては、職員の17名が関わっている。

活動について

カルチャーレンジャーは地域の人が講師となって子どもたちに伝える。消防署のかたの協力のもと、子どもフェスタで高校生対象にレスキュー体験、また、クラフトコーナーはいつでも児童館で開設している。ここには毎月100名の子どもが集う。

にこにこクラブ=児童クラブ 91名の子どもが在籍している。
久万町9校の小学校のうち、6校が利用している。自主性、創造性を培う。保護者の安心。地域の方々も、声をかけてくれる。地域といっしょに子供の成長をみることが出来る。すべての小学校に広げたいが、広域にわたり、にこにこ館に来るのが難しい。

地域子育て支援センターと一緒に、家事や、子育て、出産体験、お父さんの子育て等の話を気軽にしてもらうコミュニティの場としてハッピーカフェを開催している。だれもが利用できることで実施主体のコーディネート力を高めることができる。

困っていることは、人口の減少に伴い若い世代の働き手がない。求人働きかけるが、厳しい。むかしのままのやり方では難しい。自分のところだけでがんばるのではなく、地域などと協力推進していくことが必要である。久万保育園では、夕涼み会を軽とら市と参画させてもらって、今年から変化させた。すると、商店街に若い親が溢れていた。町内の様子がよくわかり、ふれあいができる

また、町内の団体と連携して来ていただいた人のお世話は保育士がするなどして交流している。しかし、地域の高齢化の問題もあり、赤ちゃんを85歳の方に抱いてみてほしいというのは難しい。うまく連携をとっていきたい。

社会福祉法人育和会と久万町の関係

社会福祉は私立、久万高原町から委託されて、委託料が入ってくる。委託料については、放課後子ども教室は教育委員会から、他は厚労省関係から。25年度から、一般財政が大幅に減額、人件費が賄えない。児童館を縮小するしかない。町の財政も厳しい。

にここ館に来る子どもは、放課後子ども教室、児童クラブの子、同じ子どもが多い。学童保育に通っていない子も、放課後子ども教室だけの子も児童館もあるので、厚みのある支援ができています。

放課後子ども教室の子と児童クラブの子と一緒に活動することでいいことと悪いこと、また、料金の設定、障害のある子の対応について

放課後、児童クラブがいっしょにすることで厚みができる、悪いところは、1つの建物の中で複数の事業を行っているのだが、どのような仕組みになっているのかわかりにくい。放課後子ども教室と児童館は無料、児童クラブは有料なので差別化がある。有料である児童クラブはおやつがでる、夏プランでクラブ員だけが参加できる遠足などがある。地域の中には、時々遊びに来たいと言う子どももいる。それなりに提供していきたい。毎週木曜駄菓子屋を開催している、だれがきてもいい。児童クラブの子はおやつの代わりなので無料、他の子は有料になる。クラブの子ではないからダメということにはしていない。

子どもの普段の流れ、学童の専用の部屋がある。障害を持った子どももほとんど普通の子と一緒で担当のスタッフが把握する。落ち着けるスペースがないときは、その時々で準備する。

保育園が社会福祉法人である。行政から補助金が出ない増築等のときは、育和会から持ち出すことになる。

久万高原町は広域にわたるので、歩いてこれない子どもに関しては、別料金で送迎をしている。(現在クラブ利用者がいる、明神、畑野川、父二峰、美川、仕七川小学校の

5校) その他の小学校の保護者から希望があれば検討するが、広範囲の送迎は難しい見込みである。

松山市はそれぞれが多種多様、保育園を運営しながら、児童クラブ、放課後、経営主体として見通しが立つかどうか。

久万保育園 定員90名、現84名、0歳から5歳

保育園という安定的な母体があるのと、補助金事業でなりたっている。しかし、流動的である。金銭的なものでは難しい。メインは保育園であって、複合施設を運営している。3つの施設に担当を配置しているが、保育園の職員が中心となって他の施設でも働いている。0歳のときから、家族のように育てているので、関係性が密になっている。保育園で育った子が、親になって、また、子どもを預けてくれている。私立の幼稚園なので、職員の移動がない。その家の家族史をずっとみることができる。

久万山五神太鼓保存会



池田副会長

現在、久万で消防の仕事をしている。久万が好きで一度も出たことがない。保存会は創立30周年、熱心な指導者がいたので続いた。学校の卒業式や入学式、福祉施設等で呼ばれて活動している。

私は3兄弟で育った。小学校の頃、弟が太鼓に興味を持ち五神太鼓を始め、それを見ていたが、高校3年の時、私もデビューすることにした。見ていた立場から演者となったが、その面白さにどうしてもっと早くやらなかったのかと悔やんだ。

毎週木曜日、三島神社で、大人の中に小学生、中学生が混じって練習する。実際に演技している中で、事細かく指導していく。同じ空間に異年齢の者がたくさんいるが、卒業しても地元で就職しなければ携わることが出来ないのが今後の問題。メンバーは40代以上が、14, 5名。40歳以下のメンバー9名で、主に40歳代以下のメンバーが動かしている。太鼓をやりたいから地元に残りたいが、就職先がないという現状がある。

子どもには、大人が練習しているのを見て、自分が教わりたい大人のところへ行って教われと言っている。褒めてきびしく育てることがモットー。挨拶すること、靴を揃えること、宿題は済ませて。休みが合わない場合は、メールを送って連絡する。日ごろ、練習しているかどうかは、最初にマイばちをプレゼントするので、それを見るとよくわかる。

子どもたちはばちをもって遊びに行く。ばちを友達に見せたいと思っているようだ。

家での練習は、バランスボールを足で挟んで太鼓に見立ててする。また、上下関係の中で練習する。足の開き方など上級生に言わせ、お互いに刺激し合う。他人の子どもを怒る親は少ないが、保護者には、きびしくすることを了承してもらっている。

練習を離れるといい関係を保っていると思う。中学校になると、部活やその他のことが忙しくなり、太鼓をするには難しくなる。練習する時間がない。が、その中でやりくりして継続してかかわっている。どこかへ行って叩こう、同じ世代に見てもらおうと、学習発表会などに行って太鼓を披露することもある。人前で発表すると、太鼓を叩く子が増えてくる。おとなしい子が、人前でお面をかぶって演技をすると、度胸がついて物おじしない子になる。うまくいっていると思う。ちょっとしたきっかけで、拍手をもらったりすると、もう少しがんばってみようとする。やったという達成感がある。学校や福祉施設、グループホームで活動している。松山の福祉施設、高知の敬老会にもボランティアで行っている。

お年寄りが拍手してくださり涙を流す、そのようなことが大人になって、これがぼくたちがやっていることなんだと思ったりする。

7月、第4土曜日三島神社で大人が演技する。いずれはあのような演技をするぞと思ってもらえる。打ち上げの場では、映像で映して、一人ずつ、意見をいってもらおう。

太鼓をするから、久万に残ると言う子供がいる。指導してよかったなと思う。初めて見た太鼓に感動した。これからも続けていきたい。久万の伝統芸能を続けていってほしいと願っている。

上浮穴高等学校では保存会がある。週1、1時間半練習している。

12月3日、大洲青少年交流の家にて、12時から20分くらい演奏予定。

演技披露

子どもたちの言葉「見ていただいてありがとうございました」

